令和８年４月 11 日

横山 俊一

1)基礎と専門の相関

1-1 特定現象

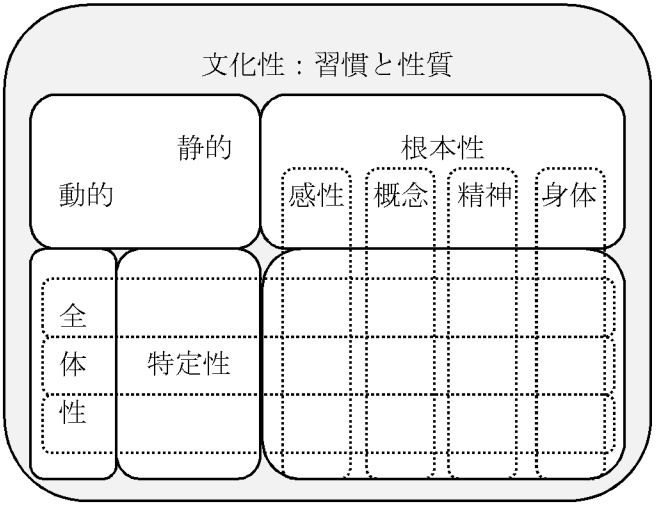
自衛隊を国防軍にして戦えるようにする論理を進める事もあって良い。しかし、この物理的な因果と強弱の潮流を無思慮的に進行させることに偏った感覚は健全な生と世界を危うくさせる。

1-2 根本観点

そもそも、「生命とは、人間とは」という根本性の思慮をもって軍事と戦争という観点のみならず、感性と概念と精神と身体の適正な在り方を土台性に引き出し、根本性に不動性の基準を整え、あらゆる対象の想定と運用を行う包括性の世界観を枠組性にして創造の大系を構成する必要がある。

1-3 包括の枠組み

根本且つ包括の枠組を欠き軍事面に偏って憲法を改正する態度には、自律を失った受動反応と力みの激しい歪性を伝える。基礎土台の脆いまま物的力への依存と支配従属の秩序を進行させる態度には正常性を欠いた危うさを感じとる。



1-4 物理受動と制御不能性

根本原理の見解が定まらず、物的要素を強化し対抗的な体制を整備するのは不健全性を見る。喫緊的な課題への応急的な措置として必要性の認識が

Created by Universal Document Converter

生じると共に、根本性や土台性の適正観の認識が弱いままであると生の根本的歪性の変容に箍のかからぬ制御不能に陥る。

1-5 犯罪性とは、本質性は

盗みや詐欺、暴力という犯罪性の認識を問い犯罪とは如何なる事か、根本的な面から本質性を掴み、歪化した経済活動に映る犯罪性の観測を含めながら、根本且つ全体大局の枠組を作り個別特定現象の性格付けや配置を与える体系と周期と持続の包括的な創造体系が要る。

1-6 一貫性

場当たり的な対応に偏らぬ、根本且つ包括の大系を築き個別特定を配する抜本的な創造を構築する態度に健全な創造基調を形成する。戦うことが出来るように憲法を改正する観点は偏狭化した改善策にあり我を忘れた制御不能に陥る懸念が強まる。健全な主体性や独立性という見解が弱く物理受動の反応が増す姿は正常な生命と人間性を減退させる。

1-7 根本且つ全体大局の概念

「生の原型性、活動法則性、学問体系、創造の包括観、成長過程論、動静観、不動と変動、」という根本且つ包括性の概念を基礎科目性に導出し国家と憲法という特定専門性に対峙し適正な在り方を模索し作り上げる構造性があって歪な専門や特定に陥らぬ自律的制御を実現する。基礎性の科目が脆いまま、部分最適と特定性を作ることの歪性が生じる。

1-8 物理強弱、相対の対立性

根本且つ全体大局の観点が無く部分性を扱う事は標準性と過不足の適正な制御を失った性質が進む。普遍的不変の要素が乏しく相対の物理強弱と受動の反応を作る態度は人格不在の病理質を広げ深める。

1-9 基礎と専門

国家と憲法という特定対象を限定し最良を図る前段には生命や人間という根本且つ全体大局の観点と見解を必要にする。小手先性の作為に留まらぬ抜本性の創造を基軸根幹に持ち部分性の適正が作られる。歪化した専門性に陥らぬ構造と性質を実現する。縦割り分断、部分最適の弊害を抑え歪な右翼左翼という両極の不良に陥らぬ健全な生命と主体性と領域性を実現する。あまりに肥満性や未成熟性が主導性を握るとお粗末な作為に箍のかからぬ病理を招く。受動性の反応が増し正常な自律や良好な牽引を喪失する。

Created by Universal Document Converter